

正念寺だより

正念寺

ほうおん こう

報恩講にお参り下さい。

とき 十月九日(木)

午後二時～・七時～

※ 経本はお寺で用意いたします。念珠をお忘れなく。また、「御懇志」をお願い致します。ご供養を留意しております。

法話

浄土真宗本願寺派布教使

大畠 信隆 師 (写真)



南無阿弥陀仏のみ教えを、今日に伝えて下さった浄土真宗の開祖親鸞(しんらん) 聖人のご命日に合わせ、全国の真宗寺院では「報恩講」がつとまります。

「なぜ南無阿弥陀仏で救われるのか？」そのいわれをお聞き下さい。お誘い合わせ多数のご参詣をお待ちしています。

正念寺 住職

彼岸花に先人の智恵を知る

三月に差向布教で参詣した大津市在住の御住職に教えていただいたことがあります。なぜ彼岸花は田んぼのあぜ道に植えてあるのか？

球根には強い有毒成分があり、モグラやネズミの進入を防ぎ、農作物を守るためなのです。そしてまた、地下茎はデンプンが豊富で、水でさらせば食用となり、飢饉への備えになったのです。先人の智恵に頭が下がります。



2014年

9月 6日

発行NO.171

七月間法会より

物部布教使は「人を恨み続けるのがいかに不幸なことかと痛感した。」

人を恨み続けるのは、すごくエネルギーがいる行為。限りある人生、そんなことにエネルギーを使うより、趣味などに使いたい」と松本サリン事件で容疑者扱いされた河野義行さんの言葉を紹介されました。

私も事件当初は、河野さんを容疑者ではないかと、テレビ報道を真に受け疑ったことを恥ずかしく思い出しました。

お釈迦様の言葉が収められた「法句経」には「**怨みに報いるに怨みを**



もってせば、ついに怨みのやむことがない。」という一節があります。

怨みや憎しみの連鎖です。ね。やられたらやり返すという、自己の正当性を暴力でもって支配する行いには、きりがありません。日本も古い時代には、「敵討ち」が行われていました。討たれた身内は仕返しを企てました。しかし近代社会になり、無駄な命の奪い合いの「敵討ち」は禁止されました。

しかし、国家のレベルでは、イスラエルの建国をめぐる中東問題をはじめ、世界中で領土問題は紛争の大きな火だねです。日本も尖閣列島・竹島の領有権問題を抱えています。軍事力をあおるやり方は、怨みの連鎖を引き起こしかねません。今こそ、戦争を起こさなために智恵を発揮するときでしょう。